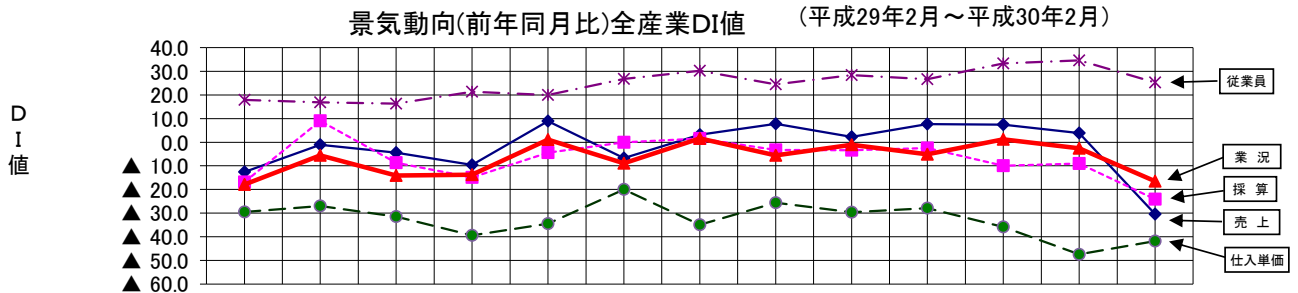


早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 2月分

【2月の概要】 景況感はやや改善の動き、先行きは依然として慎重な見通し

1月に比べると、売上DIは6か月続いたプラスから大きくマイナスに転じた。仕入単価DIはマイナス幅がやや減少しているが、採算DI、業況DIともマイナス幅が増加している。従業員DIはプラス幅が減少した。製造業やサービス業などで仕入コスト増で経営環境は厳しいとの声が聞かれ、大雪による影響も重なり、幅広い業種で景況改善のマイナス要因となったことが推察される。

先行きについては、1月に比べ、売上DIはプラス幅が増加。仕入単価DIもマイナス幅が減少して、採算DI、業況DIともマイナスからプラスに転じている。従業員DIのプラス幅は減少。2月の景況下降局面からの反転期待も込めて、今後、改善見込みとなることが伺える。



	平成29年2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	平成30年2月
売上	▲12.6	▲1.1	▲4.4	▲9.6	8.9	▲6.7	3.2	7.8	2.3	7.6	7.4	3.9	▲30.4
採算	▲16.8	9.0	▲8.7	▲14.9	▲4.4	0.0	1.6	▲3.3	▲3.4	▲2.5	▲9.9	▲9.0	▲24.1
業況	▲17.9	▲5.6	▲14.1	▲13.8	1.1	▲8.9	1.6	▲5.6	▲1.1	▲5.1	1.2	▲2.6	▲16.5
仕入単価	▲29.5	▲27.0	▲31.5	▲39.4	▲34.4	▲20.0	▲34.9	▲25.6	▲29.6	▲27.9	▲35.8	▲47.4	▲41.8
従業員	17.9	16.9	16.3	21.3	20.0	26.7	30.2	24.4	28.4	26.6	33.3	34.6	25.3

【全産業平均DI】 ※DI(景況判断指数)=(良い割合)-(悪い割合)

売上DIは7か月ぶりに大きくマイナスに転じた。採算DIは15.1ポイント、業況DIは13.9ポイントそれぞれマイナス幅が増加した。仕入単価DIは5.6ポイントマイナス幅が減少し、従業員DIは9.3ポイントプラス幅が減少した。

全産業平均DI - 向こう3か月間の先行き見通し

	売上(受注・出荷)	採算	仕入単価	従業員	業況
1月	3.9	▲5.1	▲46.2	33.3	▲3.9
2月	6.3	2.5	▲31.7	27.9	6.3

先行きは、売上DIは2.4ポイントプラス幅が増加した。採算DIはマイナスからプラス2.5ポイントに転じ、業況DIはマイナスからプラス6.3ポイントに転じた。仕入単価DIは14.5ポイントマイナス幅が減少した。従業員DIは5.4ポイントプラス幅が減少した。

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	塗装工事	先月同様に仕事量が少ない。雪が多く作業効率が良くなく、厳しい状況が続くと思う。
	総合建設	大雪の影響で年度末未完成工事に多少影響はあったが、期限完成に向けて工事仕上げを急ピッチで施工中。景気の不況感は見られない。
製造業	鉄工	工作機械部門は好調であるが、船舶関連部門は低調な動きである。
	食料品	小豆、米粉など主原料の値上げが厳しい。
卸売業	建材	公共資材の卸売業のため、豪雪の影響で工事休止となり引合いが減少している。
	身の回り品	1月、2月の土日は雪が続いた影響で展示会の売上が減少した。
小売業	家具・雑貨	好景気の渦中であるが、消費は浮揚していない。業界・当社も、経済好循環を実感できない。
サービス業	ホテル	豪雪等の異常気象の影響で宿泊とレストラン予約のキャンセルが相次いだ。
	飲食	仕入単価は、天候不順により限界にきた食材の値上げが継続しており、少しずつ上昇している。
	運輸	運賃値上げの効果がまだ反映されている一方、燃油高騰が懸念され、採算改善は燃油価格に左右されている。